

第3学年国語科 学習指導案

平成26年5月21日(水) 4校時

3年2組(男子14名 女子12名 計26名) 本時 4/8

授業者 吉井 惇也

- 1 **単元名** だん落に気をつけて読もう
教材名 「自然のかくし絵」 (東京書籍3年上)

2 単元の目標

目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落の内容を読み、興味を持った内容について『かくし絵カード』にまとめることができる。

3 単元について

(1) 単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

小学校学習指導要領国語の第3学年及び第4学年「C 読むこと」の指導事項「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」を取り上げて指導する。

②単元を貫く言語活動とその特徴

「C 読むこと」の言語活動例「オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。」を具体化した「興味をもった生き物の本を読んで、身のかくし方を『かくし絵カード』にまとめる。」という言語活動を位置付ける。

ここで取り上げる『かくし絵カード』は、自分が選んで読んだ本に書かれている生き物の身のかくし方を教材文の例の文型をもとにまとめていくものである。並行読書を行うことで、児童は、自分が興味を持った生き物について書かれた本を選んで読んでいく。その際、「ほご色」や「擬態」に関連する言葉を手がかりに本を読んでいくことで「必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと」(C読むこと オ)を確実に実現できるようにしている。また、自分が選んだ本の生き物がどんな方法で身をかかしているか教材文の例と比べながら読む活動を通して、『かくし絵カード』に書く内容を選びとり、「エ目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」について実現できるようにしている。

本教材は、児童にとっても身近な昆虫のふしぎな生態について述べられており、知的好奇心を刺激する内容となっている。保護色や擬態によって自分の身を守っている生き物は数多く見られるため、「もっと知りたい」「もっと調べてみたい」という意欲が自然に高まるであろう。

(2) 児童観

児童は、2年生の説明文最終単元「虫は道具をもっている」において、文章の中の大事な言葉や、文章の内容と自分の経験を結び付けて自分の思いや考えをまとめ発表する力をつけてきた。しかし、授業中の発言を聞いたり、感想などを見てみたりすると自分の思いを上手に伝えることができなかつたり、文が長くて結局何を伝えたか分かりにくかつたりすることが課題として見られた。そこで、本単元では、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落の内容を読みとる力へとつなげていくために、「興味をもった生き物の本を読んで、身のかくし方を『かくし絵カード』にまとめる。」という言語活動を行う。

(3) 指導観

第一次では、周りの景色となかなか見分けがつかない生き物の写真を見たり、読み聞かせを聞いたりして、自然の中で上手に身をかかしている生き物がいることを知る。また、興味を持った生き物について保護色や擬態を使った身のかくし方などをまとめて「かくし絵カードで紹介しよう」という学習のめあてを持つ。さらに、できあがった『かくし絵カード』を友だちと紹介し合うことや、クラスのカードを集めて作った『3年2組かくし絵ブック』を

図書室に置いて、いろいろな学年の児童に見てもらうことを知り、単元のゴールイメージをもつ。

第二次では、教材文に出てくる「ほご色」「かくし絵」といった中心となる語をおさえて、「はじめ」「なか」「おわり」の文の構成を確認し、大体的内容をおさえる。次に、「なか」にあたる段落にどんな内容が書かれているか読みとっていく。この時、3つの昆虫の身のかくし方を比べる活動を通して、『かくし絵カード』にまとめる際に大事なことばや文型をおさえられるようにする。最後に、教材文の3つの昆虫の例から一つを選び、「自然のかくし絵カード」を作る。

第三次では、前時までに身につけた中心となる語をおさえる力や教材の文型をもとにカードにまとめる力を使って、自分が選んだ生き物の『かくし絵カード』を作成する。並行読書をした生き物の本や図鑑から、自分が紹介したい生き物を選び、第二次で学習した手順に沿って、『かくし絵カード』を書いていく。出来上がったカードは友達と紹介した後4年生に紹介し、感想を交流した後、図書室に置いて他の学年にも見てもらう。

(4) 研究テーマとの関連

主体的に児童が学ぶためには、児童自身が単元を通して学ぶ目的をもち、見通しをもって言語活動を展開していく必要がある。そこで、導入では保護色や擬態で身をかかくす生き物について紹介したり、並行読書の本を紹介したりすることで児童の意欲を高める。また、教師が書いた『かくし絵カード』の例を見せることで単元のゴールイメージを具体的に示し、単元全体の学習の見通しを持たせる。児童は、並行読書でいろいろな生き物の身のかくし方を探しながら、カードにまとめるために必要なことは何か意識しながら主体的に学習を進めていくと考えられる。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・昆虫の生態に興味をもち、いろいろな生き物の本を読んで、身のかくし方を『かくし絵カード』にまとめようとしている。
読む能力	・目的や必要に応じて、いろいろな生き物の身のかくし方に注意しながら読み、『かくし絵カード』にまとめている。(エ)
言語についての 知識・理解・技能	・教材文を読み、指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解している。イ(ク)

〈言語活動のモデル『かくし絵カード』〉

紹介したい生き物の絵を書く。

書いた人の名前

木のかくし絵カード
木のえだそっくり
名前の
ナナフシ

木のかくし絵にまぎれてかくれているのはナナフシです。
ナナフシは、足も体もほそ長く木の葉やえだに似た色をしています。そして、木の葉やえだの上で、あまりうごかずにじっとしているので、なかなか見つけられません。
ナナフシはこうやって、鳥などのてきから身をまもっているのです。
ほご色は、どんな場合でも役立つとはかぎりませんが、てきにこまれば、生き続けるのに、ずいぶん役立っています。

吉井 惇也

紹介したい生き物に○○名
人と名前をつける。

身のかくれ方の「すごい！」が分かるようにははじめ、中、おわりを意識して本文を書く。

5 単元構想図

単元を貫く言語活動

興味を持った生き物の保護色について、身のかくし方、どんなときに役立つかを『かくし絵カード』に書く

◇学習の流れ

第一次

- 擬態やかくし絵についてのブックトークを聞き説明文への興味関心を持つ。
- 「自分たちが作ったかくし絵カードを集めて本を作ろう」という学習のめあてをもつ。

第二次

並行読書

- 全文を通読し、一番多く出てくる言葉について全段落を通して確認する。
- 各段落の要点を確認しながら大事なところをまとめる。
- かくし絵カードに必要なことが書かれている段落をおさえ、身のかくし方を分類する。
- かくし絵カードの構成を確認し、「自然のかくし絵」カードを書く。
(3つの段落から選び、まとめる)

第三次

- 並行読書で読んできた本の中から自分の書きたい生き物を選び、保護色によって身をかくすための工夫が書かれているところをカードにまとめる。
- 自分の書きあげたカードを友だちと紹介し合い、感想を交流し合う。
- 4年生に『かくし絵カード』を紹介する。

単元で付けたい力

- ・目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落の内容や段落相互の関係を読む力。
- ・自分が興味をもった本について、必要に応じて文章を要約する力。

◇意識の流れ

【児童の実態】

文章の中から必要な情報を読み取り、選んで自力でまとめる力が弱い。

- ・どこにどんな虫がかくれているのだろう。
- ・「かくし絵カード」で友だちに伝えたいな。
- ・自分の組のカードを図書室においてもらおう

- ・くり返し出てくる言葉があるな。
- ・だいたいな文はどこだろう。
- ・カードを作るのに必要な段落はどこかな。
- ・身のかくし方に名前をつけたいな。

- ・保護色って○○だなあ。
- ・この生き物はこうして身をかくすよ。伝えたいな。
- ・友だちに身のかくしかたが伝わるといいな。
- ・2年生に早く紹介したいな。

6 指導計画及び評価計画（全8時間）

	時	学習活動	主な評価規準
第一次	1	○擬態や保護色についての読み聞かせを聞く。 ○「3年2組、かくし絵ブックを作ろう」という学習のめあてをもつ。 ○学習の流れを知る。	【関】めあてを知り、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (発言・行動観察・ノート)
第二次	2	○はじめ、中、おわりについて再確認する。 ○一番多く出てくる言葉について全段落を通して確認する。	【読】くり返し出てくる言葉や、題名とつながりがあると思う言葉に気をつけて読んでいる。 (発言・ノート、教材文)
	3	○「はじめ」の中で、自分がカードに書きたい文を選ぶ。	【言】接続語に気をつけて、自分のカードに書く「はじめ」の文を選んでいる。(発言・ノート)
	4	○3つの身のかくし方に名前をつけて分類し、カードに書くために必要な文を選ぶ。	【読】『自然のかくし絵カード』を作るのに役立つ段落を選び、各段落の大事な言葉をとらえている。 (発言・ノート)
	5	○自然のかくし絵カードを作る。(絵と文)	【読】段落に書かれてある内容を、大事なところを落とさずに短くまとめている。 (自然のかくし絵カード)
第三次	6	○自分が興味を持った生き物の本の中から、選んで身のかくし方について『かくし絵カード』を書く。	【読】これまでに読んだ本の中から、書きたい生き物を選び、必要な言葉をつかって、(生き物の)『かくし絵カード』に短くまとめている。 (発言・行動観察・(生き物の)かくし絵カード)
	7	○友だちと『かくし絵カード』を紹介し合い、感想を交流し合う。	【関】生き物の生態に興味を持って読み、紹介し合ったり、進んで感想を出し合ったりしようとしている。 (付箋・発言)
	8	○4年生に『かくし絵カード』を紹介する。	【関】自分が作った『かくし絵カード』を2年生にすすんで紹介している。 (行動観察・ノート)

7 学習の展開

第二次 3時間目（4／8）本時

(1) 目標 『自然のかくし絵カード』を作るのに役立つ段落を選び、各段落の大事な言葉をとらえることができる。

(2) 展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点 (○) 評価 (☆) 支援 (※)
<p>1 単元の言語活動を確認する。 2 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> かくし絵カード が書けるように なるために </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> 虫たちの身のかくし方のすごさをくらべよう。 </div>	<p>○学習のゴールを確認することで、意欲を持たせる。</p>
<p>3 課題を解決する。</p> <p>(1) 例に出ている虫を確認する。 ・全体交流</p> <p>(2) 3～7段落を音読する。</p> <p>(3) 3、6、7段落について書かれてある虫を身のかくし方に注目して分類し、名前を付ける。 ・個人思考 ・ペア ・全体交流 (～名人)</p> <p>(4) 並行読書 ・5分から10分確保し、どのような身のかくし方(本時で学習した虫の身のかくし方と同じものはないか、また別のかくし方はないか)をしているかを意識して読む。</p>	<p>○板書に段落番号と虫の名前を提示する。</p> <p>○家庭から探してきた身のかくし方の「すごい！」を意識しながら音読させる。</p> <p>○身のかくし方の「すごい！」を書いてから○○名人を書くようにさせる。 ・1つ目は自分がカードに書こうと決めている虫 ・2つ目は書けそうなところを ・3つできる人は3つとも</p> <p>○ペア対話では、どうしてその名前をつけたのかわけを必ず話させるようにする。</p> <p>○ペアや全体交流で話がしにくい児童には「～だから～名人と名前をつけました。」という話型を示す。</p> <p>○挿絵を用い、身のかくし方を捉えやすいようにする。(デジタル教科書使用)</p> <p>○友達が思う身のかくし方の「すごい！」が本文のどこに書かれているか探しにくい場合にはデジタル教科書で確認する。</p> <p>☆『自然のかくし絵カード』を作るのに役立つ段落を選び、各段落の大事な言葉をとらえている。</p> <p>【読】(ワークシート、発言、ノート) ※分類することが難しい児童には、3種類の虫の身の守り方について教材文で確認しながら個別に声をかけて考えさせる。</p>
<p>4 次時の学習について知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>家庭学習</p> <p>①「自然のかくし絵カード」のおわりに使いたい一文を選んでサイドラインを引いてくる。</p> <p>②国語日記を書いてくる。</p> </div>	<p>○次時は「自然のかくし絵」のカードを書くことを予告する。</p>

(3) 評価規準

B 概ね満足できる状況

◆カードを書けるようになるために必要な段落を選び、身のかくし方を見つけている。

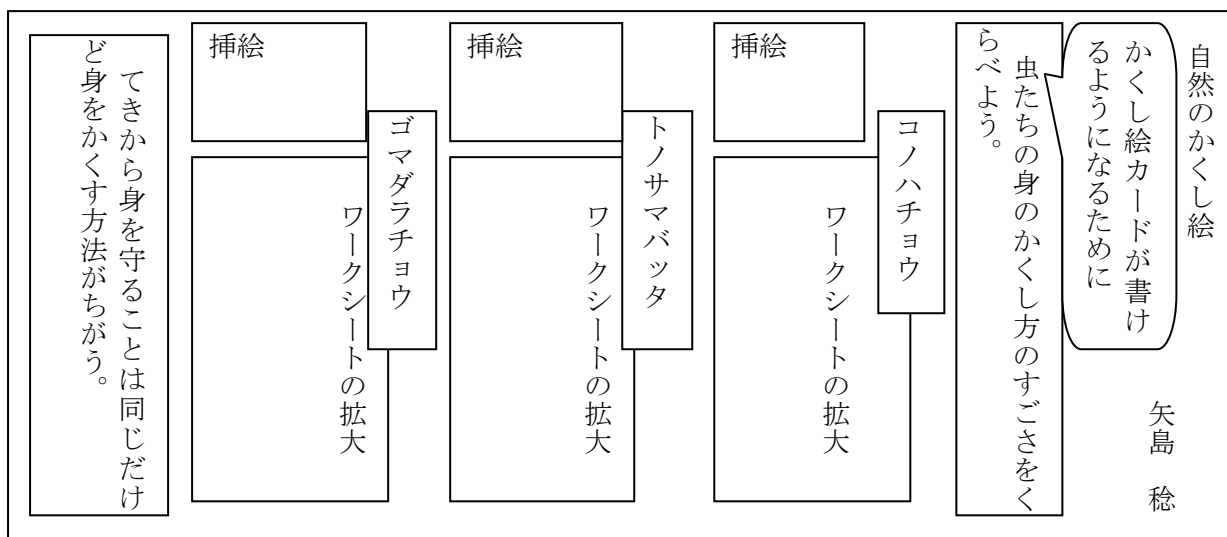
コノハチヨウ・・・身のかくし方：木の葉に似ていて、かれはと見分けがつかない。

A 十分満足できる状況

◆カードを書けるようになるために必要な段落を選び、書かれてあることをもとに身のかくし方に名前をつけている。

コノハチヨウ・・・そっくり名人
身のかくし方：羽をとじた時の形も色も木の葉そっくりで見分けがつかない。

(4) 板書計画



(5) 準備物

- ・ 虫の名前カード
- ・ 挿絵（掲示用）
- ・ 掲示用の教材文
- ・ デジタル教科書